

## 掲載依頼

# 沖縄の優れた建設技術を外国の技術者に発信！ 沖縄インフラツーリズムをトライアル実施しました —2023年1月26日（木）・27日（金）—



1/27 泡瀬工区橋梁建設現場を見学

1月26日、27日の2日間、「沖縄全域を屋外インフラ展示場と考え、島嶼性・亜熱帯性に適合した沖縄の特色あるインフラ技術を海外に発信するツーリズム、“沖縄インフラツーリズム”」を沖縄県、一般社団法人沖縄県測量建設コンサルタンツ協会、沖縄県技術士会、JICA 沖縄の共催のもと、トライアル初開催しました。

この取り組みは、沖縄県建設産業の海外展開検討促進の一助として、海外との人的・技術的ネットワークの構築支援をねらいとするもので、フィリピン、インドネシア、チリ、パキスタン、ケニアの海外の建設技術者6名と(一社)沖縄県測量建設コンサルタンツ協会、沖縄県技術士会の会員、約20名(2日間計)が参加しました。

プログラムは講義と現場視察を組み合わせた内容となっており、ツアー1日目は「観光資源としての沿道景観計画」をテーマに嘉手納町、豊崎エリアの観光エリア沿道景観(植栽計画、外来植物対策等)を視察、2日目は離島架橋整備計画をテーマにうるま市の伊計大橋、そして沖縄市泡瀬の橋梁建設現場を視察しました。

1日目のプログラム冒頭では(一社)沖縄測量建設コンサルタンツ協会の大城副会長より「参加者が一方的に沖縄のインフラ整備を学ぶのではなく、当協会および沖縄県技術士会の会員も、説明・質疑応答の対応をなどの意見交換やワークショップを通して、海外参加者からみた沖縄県のインフラ整備のあり方を考察することで、双方の学びの場になることを期待する。そして、海外参加者の国々と沖縄県ならびに日本との友好関係が一層深まるとともに、これが世界の平和と発展につながることを祈念する」との言葉がありました。また沖縄県土木建築部土木総務課・金城氏からは県内建設関連企業が有する自然環境を保全する技術や、島しょ性・亜熱帯性等の地域特性、台風、赤土、塩害等に対応した建設技術、また「沖縄建設産業グローバル化推進事業」の紹介があり、沖縄県の地域特性に対応し培われた技術、ノウハウは、類似の課題を抱えた地域や、地形的・気候的にも沖縄に似た地域において、活用できる可能性がある、各国で参考になれば嬉しいと沖縄県の特色ある建設技術をアピールしました。

その後、講義にて沖縄県の良好な沿道景観形成に向けた取り組みを学び(講師・徳丸慶太郎氏/南西環境研究所)、午後の視察では嘉手納町、豊崎エリアの観光エリア沿道にて、沿道景観の印象や外来植物の管理方法(講師・宮良 工氏/沖縄環境地域コンサルタント)について説明を受けながら、意見交換が行われました。

2日目のプログラム「離島架橋計画」では、橋梁の塩害対策等の対策等、沖縄離島架橋の特徴を琉球大学・工学部の富山潤教授に講義いただいたあと、技術士会の親泊宏氏(SK 設計)より、視察先の橋梁(伊計大橋・泡瀬工区橋梁)の概要説明がありました。午後の現場視察では、伊計大橋の橋梁メンテナンス、塩害対策を実際に現場で説明を受け学び、泡瀬工区の橋梁建設現場では、最先端の塩害対策技術、建設施工を視察しました。海外建設技術者からは「私たちの国は似たような気候条件に直面しており、塩害被害は深刻な問題。伊計大橋を見て、沖縄の取り組みをぜひ母国でも生かしたいと思った。」、「泡瀬の橋梁建築現場では、技術者からなる小さなチームが、テクノロジーを駆使してこのような大きなプロジェクトを実現するという、革新的なアプローチに感動した(特に、プレハブ部分や埋め立てなど、出来栄えやアウトプットが素晴らしかった)」、「泡瀬では、日本の建設がいかに自動化・機械化されているかを観察する機会だった。また橋の建設では、建設プロセスをうまく機能させるために、さまざまなセクションが組織化された取り組みを学ぶことができた」、など多くの感想があがりました。

また、インフラツーリズム自体の取り組みに対して「講義と現場視察というフルパッケージで、日本の技術士の方々を知り合うことができたのは、大変貴重な機会であり、ありがたかった。私たち、そして沖縄の技術者、それぞれの考え方、知識、経験を共有することができました。今後、母国と日本の技術士との関係がより密接になり、環境保全のための持続可能なビジネスと研究が構築されることを願っています。(インドネシア)」などの感想があがりました。

日本人参加者からは「海外の方の質問等からの技術の違い、課題などが見える。」、「海外技術者から見た沖縄のインフラに対する率直な意見を聞くことができ学びとなった。」「このような機会を定期的に持つことで技術の交流が徐々に図られてくるのではと思う。」「海外展開は心理的不安要素が大きいのと思われるため、海外での活動にあたり信頼できるネットワークの構築は必要」、「沖縄の独自技術を海外展開することが出来れば県内企業の成長に繋がると考える。」、「沖縄で培われた技術は世界でも通用する。」といった感想がありました。

沖縄県、沖縄県測量建設コンサルタント協会、沖縄県技術士会、JICA 沖縄では今後も県内建設産業の発展、開発途上国の課題解決にむけた取組みを連携して実施して参ります。

本事業につきましてぜひ記事掲載をご検討いただけますと幸いです。

不明な点、写真素材等他にもありますので、ぜひお気軽にお声かけください。

どうぞ宜しくお願い致します。

#### 【お問い合わせ】

沖縄インフラツーリズム 調整担当

国際協力機構(JICA)沖縄センター 市民参加協力課：柳詰(やなづめ)

TEL: 080-9117-5151 [Yanazume.Yuki.3@jica.go.jp](mailto:Yanazume.Yuki.3@jica.go.jp)

番外編 1日目の夜に交流会を実施しました。最後はみんなでカチャーシー！

